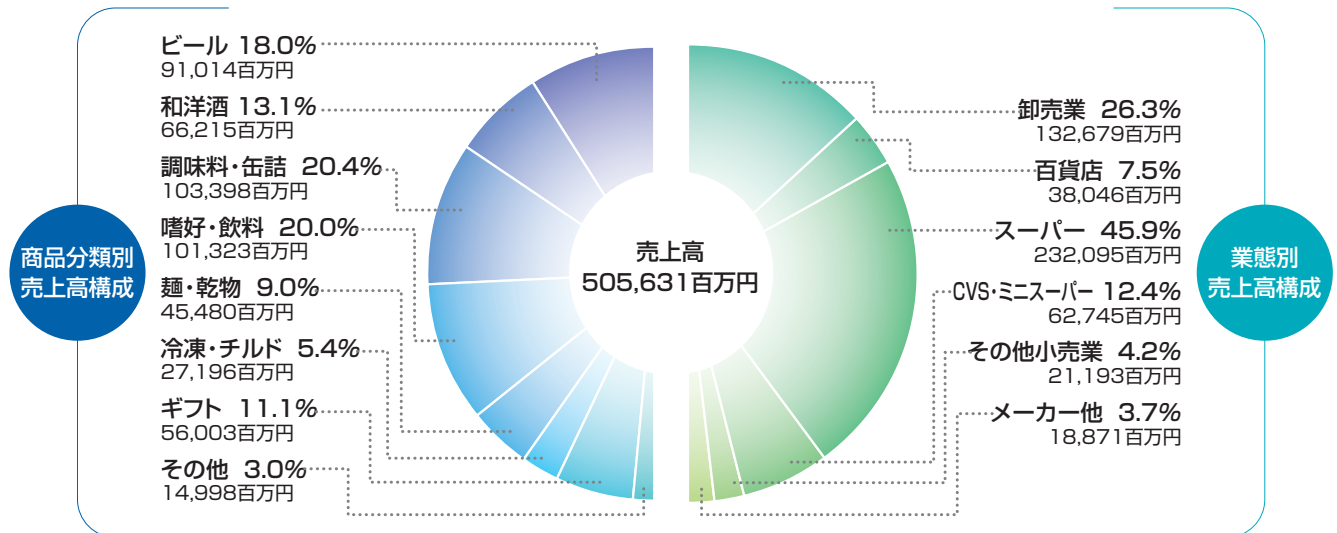
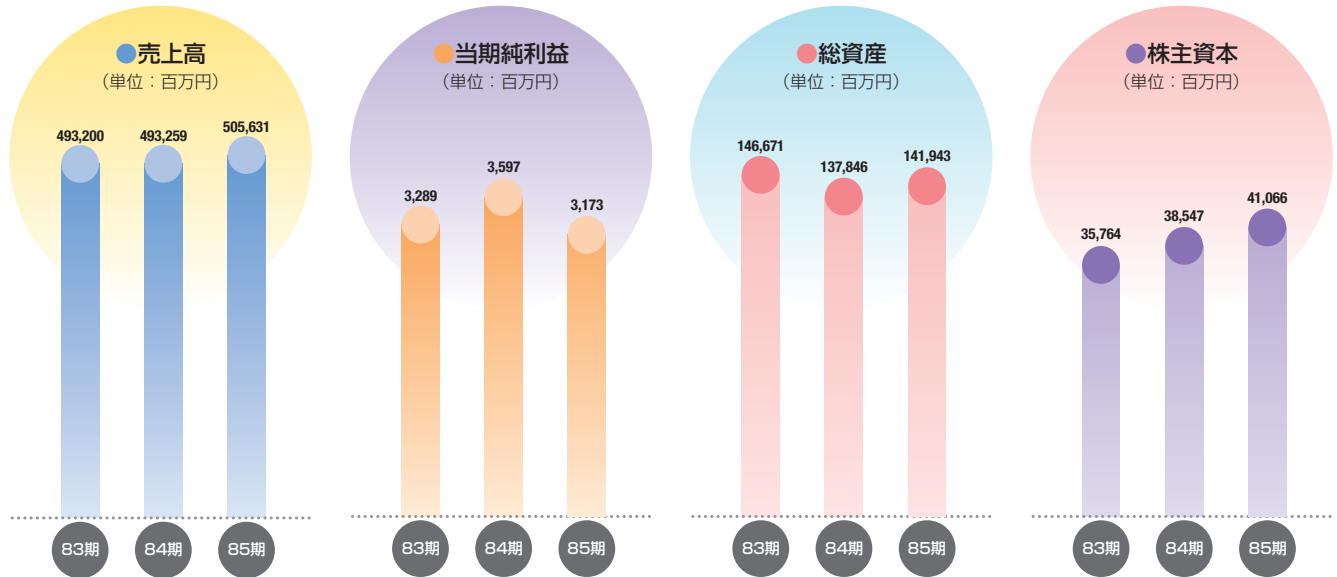


伊藤忠食品から株主のみなさまへ



Financial Highlight

連結決算ハイライト



※ギフトには酒類ギフトが含まれております。

ごあいさつ

株主の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社第85期(平成14年10月1日から平成15年9月30日まで)の「事業報告書」をお届けいたしますので、ご高覧いただきますようお願い申し上げます。

平成15年12月

代表取締役社長 尾崎弘



Top Interview | トップインタビュー

一括物流センターの新規開設や積極的な商品企画提案などを実践したアクティブな第85期を振り返るとともに、中間流通業としての企業価値を高める取り組みを心に秘め、次期にのぞむ伊藤忠食品の尾崎弘社長にお話を伺いました。

収益向上への新たなビジョンを描く。 一括物流、ギフトビジネスなど、強みを活かした取り組みや、 新分野へのアプローチにも大いに期待。

Q まず、第85期業績の概要についてお聞かせください。

A 当期の業績は、グループ売上高で初の5,000億円台を達成し前期比102.5%を計上することができました。これは、一括物流センターの受注増も要因ではありますが、中堅スーパー様向けの売上が伸びたことが要因です。一方利益については、11.8%の減益となりました。ご承知の通り食品卸業界を取り巻く環境は依然としてトンネルを抜け出せない状況にあり、お客様から納入価格の見直しを迫られるような厳しい状況になったことと同時に、酒類を中心にメーカーの販売促進費圧縮の動きも影響しました。これがマイナス要因のひとつであり、更に一括物流センター建設の初期投資の

回収途上にあることも減益につながっています。現在稼動している一括物流センターは、着実に軌道に乗り増収に貢献していますが、その受託メリットを享受できるようになるには、開設から3年程度かかるとみています。新規建設から軌道に乗って初期投資の回収、この繰り返しがある以上増益は当面期待できませんが、小売業界における全国規模での一括物流センター化への流れが、今後2年程度で収束すると予想しています。したがって、その後の増益は当然期待できますし、利益拡大にもっていかねばならないと考えています。このように一括物流センターの収益拡大については、中長期的な視点でその効果を見る必要があるということをご理解いただきたいと思います。



Q 一括物流センターを代表する流通改革が業界に浸透していく中で、中間流通業の存在意義もますます強調していく必要があると思いますが、その観点から伊藤忠食品としての強みは何でしょうか。

A 当社は、様々なカテゴリーのメーカー商品を総合的に取扱っている中間流通業の強みを活かして、早くからギフトビジネスに取り組んでまいりました。百貨店・スーパー・通販など、お客様それぞれの個性に適したオリジナルギフトの開発・作成・提案はもちろん、調達・梱包・配送という物流面のサポートに至るまで、他社にはない当社独自の機能を充実させています。私たちは、ギフトに関する企画力・物流ノウハウでは業界ナンバーワンであると自負しています。その長い歴史ゆえに変革が難しいとされた百貨店業界でも、物流の合理化・集約化は始まっていますが、おかげさまで当社はギフトビジネスで先鞭をつけることができました。今後は新ギフト商品の共同開発なども積極的に進めることで当社の存在意義をいっそう高め、百貨店様との関係をより強固なものにしていきたいと思えます。

Q ギフトを通じての百貨店との関係強化をはじめ、リテールサポート機能の充実もますます加速していくと思いますが。

A 小売業界が強大なインフラを整備し、情報システムに投資していることを勘案すれば、卸業界も遅れをとるわけにはいきません。当社は、伊藤忠商事の情報システムノウハウを共有し、それを強みとしています。情報力、資金力、海外を含めた商品開発力を活かして更なる物流の合理化、情報システム面での効率化を推進していくことこそ、質の高いサービスとなってリテールサポート、つまりお客様の満足につながるものと考えています。

Q 技術ばかりが先行しても、それを操る人間の勉強不足が大きな損失を招きかねないと思いますが、御社の社内教育体制はいかがでしょう。

A 確かにいくら優秀なシステムができあがっても、それをいかに活かすかは社員の才能であり、センスと言ってしまうでしょう。技術だけに溺れることなく、社員一人一人の感性も同時に磨いていくことが必要不可欠と考えています。当社は人材育成の一環として、現場のプロである小売業の幹部の方を講師にお招きしてスーパー側からみた問屋についてお話を聴いたり、業界のエキスパートとして、また社会人としてのレベルアップをめざす社員教育を頻繁に行っています。これらを通じて人とシステムが有機的に働き、より大きな力を生むよう努力をしています。

Q ビジネスとして新しい芽を大きく育てていくという意味で、新しく取り組んだことがあるようですが。

A 当社では新しく大手外食チェーン大庄様より一括仕入れ・物流業務を受託しました。酒・飲料からスタート

し、順次加工食品や店舗資材等に取扱いを拡大していく方針です。外食産業への一括仕入れ・物流業務を受託するのは新分野への挑戦となりますが、商品の豊富な品揃えや、鮮度管理、商品管理、納品精度など、伊藤忠食品が有する機能をフル回転させて最適なシステムを作り上げたいと思います。また、今後はこの事業で培ったノウハウを活かして、他の外食チェーンにも積極的にアプローチをしていきたいと考えています。

Q 一方、業界内の統合・合併があちらこちらで活発化しているようですが、この点についてはどのような見解をおもちですか。

A 一括物流センターなどによる物流拠点の集約化、情報システム化が進んだことに加えて酒類販売免許の規制が緩和されたことなどを受け、地域卸をも巻き込んだ業界再編が進んでいます。しかしながら、当社が掲げる経営理念「大きいよりは、いい会社」「売上より、利益」という観点から、規模を拡大して売上だけを伸ばすことを基準とはしていません。合併や経営統合は、じゅうぶんに相手を吟味し、商売としての価値を見極めて慎重に進めていきたいと考えています。

Q ビジネスとは少し離れますが、様々な社会貢献活動にも積極的に取り組んでいらっしゃいますね。

A その通りです。当社は社会貢献活動の一環として、日本盲人社会福祉施設協議会に、盲導犬育成用としての寄付を行いました。そうしたと



日本盲人社会福祉施設協議会より授与された感謝状の盾

ころ、今年は同協議会発足50周年ということで、天皇后陛下ご臨席のもと、これまでの貢献に対し表彰を受けることができました。これは民間企業としてはめずらしいことで、私どもは大変光栄なことと思っています。また、引き続き毎日新聞社主催の「小児ガン征圧キャンペーン」にも賛同しています。こうした社会貢献活動は、今後も続けていきたいと考えています。

Q 最後に、来期への展望も含めて、株主の皆様メッセージをお願いします。

A 先に述べましたように、今期決算は増収減益という結果になってしまいました。これは、一括物流センター建設の初期投資による負担が大きいのですが、数年後には必ず当社の利益に貢献するものをご理解いただきたいと思います。しかし、今期の業績を真摯に受け止め、飛躍のためのバネにして、来期は力強い発展をめざします。

次期展望の一つ目として、当社の強みである好調なギフトビジネスを軸に、百貨店業界との結びつきをより強固なものにしていくことが重要であると考えています。二つ目に、外食チェーン向けの一括仕入れ・物流システムを充実させていくことです。このような新分野への進出は、とくにタイミングが重要でしょう。そして三つ目に、東急ストア様向けをはじめ新規に開設する数ヶ所の一括物流センターの成功です。これは来期の大きなキーポイントになってくることは間違いありません。

これまでの実績から大きな信頼をいただいているスーパー、コンビニエンスストアとの取引も引き続き盤石の態勢で臨みつつ、新たな業界へのアプローチも積極的に行いたいと思います。株主の皆様のご期待に充分お応えできるよう努力してまいりますので、変らぬご支援をお願いします。

小売業を強力にサポートする一括物流

一括物流とは、商品や情報を一元管理し、お取引先様専用の物流センターと情報システムによって運営される物流システムのことを言います。

当社は、物流戦略の柱として「一括物流機能の強化」に積極的に取り組み、受発注から在庫管理・配送までのトータルサービスを向上させることで、流通の効率化・ローコスト化に貢献しています。



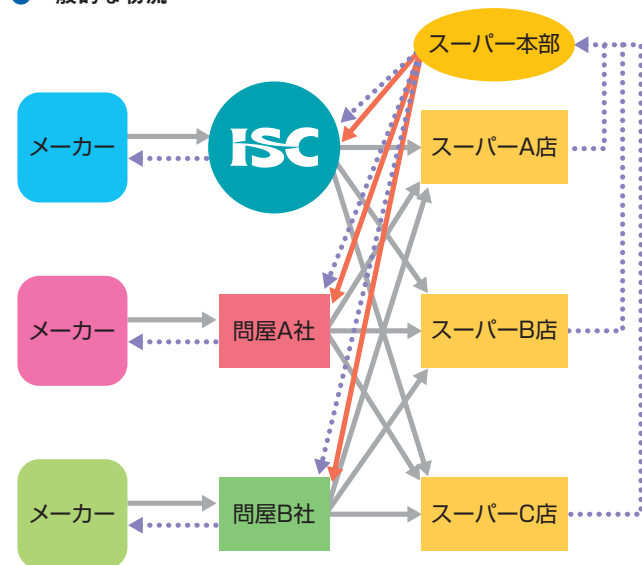
店舗での作業効率化とローコスト化を追求

一般的な物流は、商品をメーカーや問屋が各店舗に直接納入していますが、一括物流では、全ての商品をいったん物流センターに納入し、店別・商品カテゴリー別等に仕分けを行った上で、一括して各店舗に納品します。

これにより、店頭でのノーマン検品が可能になるとともに、商品陳列などの作業時間が大幅に軽減され、店員は接客などのサービスに時間を充てることができます。

また、店舗への配送車両台数を削減することができ、交通渋滞の緩和、大気汚染の減少など環境負荷の低減にも役立っています。

●一般的な物流



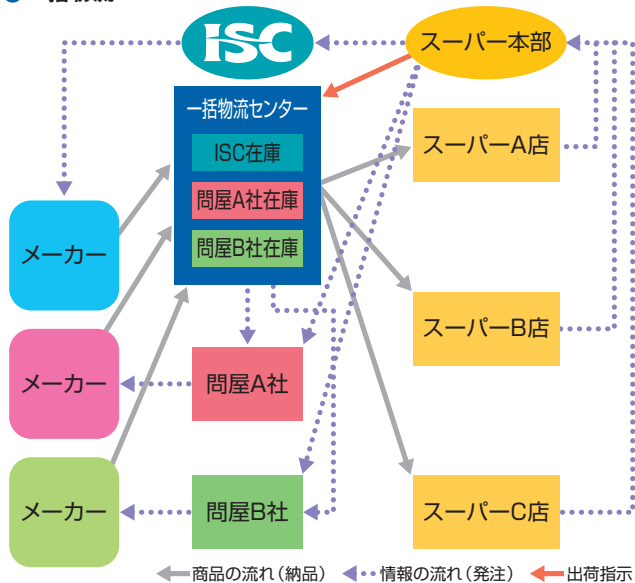
高度な情報システム

一括物流センターには何千点にも及ぶ商品が納入されます。これを安全に、低コストで配送するには、高度な情報システムとの連携が必要となります。

一括物流のシステムは、入庫から出荷までの鮮度管理が徹底され、安全な商品を消費者にお届する仕組みで運営されています。



●一括物流



Topics | トピックス

本格焼酎「五大陸」を独占販売

本格焼酎ブームの中、当社は薩摩酒造(株)の100%子会社である萬世酒造(株)と共同開発した、本格焼酎「五大陸」を本年6月に当社独占で全国一斉発売しました。

この商品は、長期貯蔵いも焼酎に檜樽貯蔵むぎ焼酎をブレンドした、いまだかつてない新しい味わいの本格焼酎です。自然な甘さと奥行き感のあるいも焼酎と、華やかな香りのむぎ焼酎の絶妙なハーモニーは焼酎が初めての方や女性の方などにも幅広くお楽しみいただけます。是非、ご賞味ください。



ネーミングの由来:日本国内はもとより全世界(五大陸)に通用しうるスケール感のある商品に育てたいという思いを込めて命名しました。

「社会との融和、社会への感謝を忘れず」

当社は、本年も俳優の渡 哲也さん率いる石原プロモーションが全面協力する「小児ガン征圧キャンペーン」(毎日新聞社主催)に賛同しています。

寄付金は、ガン征圧のための最先端医療に取り組む病院やガンの子供を守る会などのボランティア団体に贈呈され、研究活動や小児病棟の改装などの大きな支えとなっています。



連結決算の概要

Consolidated Financial Statements

● 連結貸借対照表 (単位：百万円)

科 目	当 期 平成15年9月30日現在	前 期 平成14年9月30日現在
●資産の部		
流動資産	95,218	91,698
固定資産	46,724	46,147
有形固定資産	20,786	20,821
無形固定資産	754	865
投資その他の資産	25,183	24,460
資産合計	141,943	137,846
●負債の部		
流動負債	98,109	96,391
固定負債	2,576	2,709
負債合計	100,685	99,101
●少数株主持分		
少数株主持分	190	197
●資本の部		
資本金	4,923	4,923
資本剰余金	7,119	7,119
利益剰余金	27,680	24,874
其他有価証券評価差額金	1,346	1,631
自己株式	△ 3	△ 1
資本合計	41,066	38,547
負債、少数株主持分及び資本合計	141,943	137,846

※百万円未満は切り捨てて表示しております。

● 連結損益計算書 (単位：百万円)

科 目	当 期 平成14年10月1日から 平成15年9月30日まで	前 期 平成13年10月1日から 平成14年9月30日まで
A 売上高	505,631	493,259
売上原価	455,368	446,603
売上総利益	50,263	46,655
販売費及び一般管理費	45,015	40,580
営業利益	5,248	6,074
営業外収益	696	588
営業外費用	43	53
B 経常利益	5,900	6,610
特別利益	82	209
特別損失	342	460
税金等調整前当期純利益	5,639	6,359
法人税、住民税及び事業税	2,384	2,762
法人税等調整額	81	△ 10
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△ 0	9
C 当期純利益	3,173	3,597

※百万円未満は切り捨てて表示しております。

A 売上高

酒類を中心とした大手スーパーとの取引拡大と同時に、懸案であったリージョナルスーパーとの取引増大、及び仕入先集約の流れにある大手百貨店との取引拡大にも実績をあげることができ、コンビニエンスストアとの取引減少、デフレによる納入単価の下落による減収分をカバーした上、前期比2.5%の増収となりました。

B 経常利益

増収に伴う売上総利益の増加や業務の効率化・合理化の推進による諸経費の削減に積極的に取り組んでまいりましたが、得意先の納入価格見直し、メーカーの販売促進費圧縮、更に物流センターの新設・移設に伴う一時費用の発生等により、残念ながら前期比10.7%の減益となりました。

C 当期純利益

投資有価証券売却益等により82百万円を特別利益に、固定資産除却損、退職給付会計基準変更時差異の処理等により3億42百万円を特別損失にそれぞれ計上いたしました。

●連結剰余金計算書 (単位：百万円)

科 目	当 期	前 期
	平成14年10月1日から 平成15年9月30日まで	平成13年10月1日から 平成14年9月30日まで
●資本剰余金の部		
資本剰余金期首残高	7,119	7,119
資本剰余金増加高	—	—
資本剰余金減少高	—	—
資本剰余金期末残高	7,119	7,119
●利益剰余金の部		
利益剰余金期首残高	24,874	21,628
利益剰余金増加高	3,173	3,597
当期純利益	3,173	3,597
利益剰余金減少高	367	352
配当金	260	260
役員賞与金	106	91
利益剰余金期末残高	27,680	24,874

※百万円未満は切り捨てて表示しております。

●連結キャッシュ・フロー計算書 (単位：百万円)

科 目	当 期	前 期
	平成14年10月1日から 平成15年9月30日まで	平成13年10月1日から 平成14年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,130	△ 2,729
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,352	△ 3,469
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 610	△ 1,098
現金及び現金同等物の増減額	166	△ 7,297
現金及び現金同等物の期首残高	9,674	16,971
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	217	—
現金及び現金同等物の期末残高	10,058	9,674

※百万円未満は切り捨てて表示しております。

子会社・関連会社

(平成15年9月30日現在)

Subsidiaries and Affiliates

	名 称	主要事業内容	議決権比率(%)
連結 子会社	株式会社関東メイカン	食品卸売業	85.9
	株式会社静岡メイカン	食品卸売業	71.4
	株式会社エム・ワイフーズ	食品卸売業	87.5
	メイカン物産株式会社	食品卸売業	60.0
	愛知伊藤忠食品株式会社	食品卸売業	100.0
	株式会社シンドー	食品卸売業	51.0
	九州伊藤忠食品株式会社	酒類・食品卸売業	100.0
非連結 子会社	株式会社磯美人	食品製造業	83.3
	新日本流通サービス株式会社	物流管理・運送業	100.0
	株式会社宝来商店	酒類・食品小売業	100.0
関連 会社	株式会社東名配送センター	物流管理・運送業	51.0
	ジャパン・カーゴ株式会社	物流管理・運送業	90.0
	株式会社中部メイカン	食品卸売業	42.5
	北陸中央食品株式会社	食品卸売業	40.0
	プライムデリカ株式会社	食品製造業	20.0
	イチ・アイ・コーポレーション株式会社	物流管理・運送業	30.0

(物流管理・運送業)

- 新日本流通サービス(株)
- (株)東名配送センター
- (株)ジャパン・カーゴ(株)
- イチ・アイ・コーポレーション(株)

(卸売業)

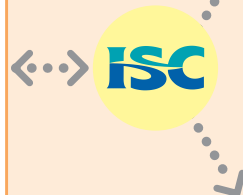
- (株)関東メイカン
- (株)静岡メイカン
- (株)エム・ワイフーズ
- (株)メイカン物産(株)
- 愛知伊藤忠食品(株)
- (株)シンドー
- 九州伊藤忠食品(株)
- (株)中部メイカン
- (株)北陸中央食品(株)

(食品製造業)

- (株)磯美人
- (株)プライムデリカ(株)

(小売業)

- (株)宝来商店



単独決算の概要

Non-Consolidated Financial Statements

● 貸借対照表 (単位: 百万円)

科 目	当 期 平成15年9月30日現在	前 期 平成14年9月30日現在
● 資産の部		
流動資産	90,544	87,278
固定資産	45,535	45,006
資産合計	136,079	132,284
● 負債の部		
流動負債	93,445	91,891
固定負債	1,669	1,914
負債合計	95,115	93,805
● 資本の部		
資本金	4,923	4,923
資本剰余金	7,119	7,119
利益剰余金	27,568	24,780
その他有価証券評価差額金	1,355	1,657
自己株式	△ 2	△ 1
資本合計	40,964	38,479
負債・資本合計	136,079	132,284

※百万円未満は切り捨てて表示しております。

● 損益計算書 (単位: 百万円)

科 目	当 期 平成14年10月1日から 平成15年9月30日まで	前 期 平成13年10月1日から 平成14年9月30日まで
売上高	485,824	474,984
売上原価	440,184	432,259
売上総利益	45,640	42,725
販売費及び一般管理費	40,508	36,894
営業利益	5,131	5,830
営業外収益	661	619
営業外費用	23	28
経常利益	5,770	6,421
特別利益	68	183
特別損失	318	475
税引前当期純利益	5,520	6,129
法人税、住民税及び事業税	2,277	2,636
法人税等調整額	105	44
当期純利益	3,137	3,449
前期繰越利益	279	267
中間配当額	130	130
当期未処分利益	3,286	3,586

※百万円未満は切り捨てて表示しております。

● 利益処分 (単位: 百万円)

科 目	当 期 平成15年12月19日	前 期 平成14年12月20日
当期未処分利益	3,286	3,586
任意積立金取崩額	8	11
合計	3,294	3,597
利益処分額	3,014	3,318
次期繰越利益	279	279

※百万円未満は切り捨てて表示しております。

会社の概要

(平成15年9月30日現在)

Corporate Profile

- 商号 伊藤忠食品株式会社
- 創業年月日 明治19年2月11日(1886年2月11日)
- 設立年月日 大正7年11月29日(1918年11月29日)
- 資本金 4,923,464,500円
- 従業員数 1,005名
- 本店所在地 大阪市中央区高麗橋2-1-6
大阪本社
〒541-8578 大阪市中央区高麗橋2-1-6
電話(06)6204-5901
東京本社
〒103-8320 東京都中央区日本橋室町3-3-9
電話(03)3270-7620
- 主な事業所 支社
東京支社…北海道支店/仙台支店/横浜営業所/
千葉営業所/多摩営業所/岩槻営業所/高島平営業所/
群馬営業所/沼津営業所/郡山出張所
名古屋支社
大阪支社…大阪南営業所/四国支店/和歌山営業所
直轄支店
北陸支店…富山営業所
京都支店
中国支店…東部営業所/山口営業所/岡山支店
福岡支店…佐賀営業所/鹿児島営業所
- 役員
代表取締役社長 尾崎 弘 取締役 山仲 春男
代表取締役専務 西村 均 取締役 足立 誠
代表取締役専務 木村 英彦 取締役 泉屋 洋
専務取締役 岩井 淳 取締役 森本 政朗
専務取締役 川嶋 正之 取締役 栗山 勝之
専務取締役 長野 泰之 取締役 佐藤 進
常務取締役 増永 徳士 取締役 河千田幸彦
常務取締役 大野 志郎 取締役 佐藤 満
常務取締役 松山 義雄 取締役 田中 茂治
常務取締役 岩城 彰 常勤監査役 浅井 久生
監査役 増岡 章三
監査役 関 忠行
監査役 米家 正三

株式の状況

(平成15年9月30日現在)

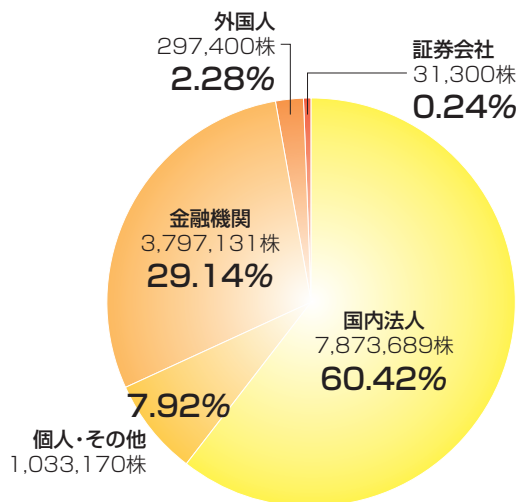
Stock Information

- **会社が発行する株式の総数**.....40,000,000株
- **発行済株式の総数**.....13,032,690株
- **株主数**.....2,854名

●大株主

株主名	所有株数(株)	議決権比率(%)
伊藤忠商事(株)	2,826,516	21.7
日本トラスティ・サービス信託銀行(株) (住友信託銀行再信託分伊藤忠商事(株)退職給付信託口)	1,400,000	10.7
伊藤忠製糖(株)	1,376,375	10.6
味の素(株)	1,187,429	9.1
日本トラスティ・サービス信託銀行(株) (住友信託銀行再信託分・アサヒビール(株)退職給付信託口)	690,000	5.3
(株)シーアイフーズシステムズ	600,000	4.6
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	542,300	4.2
アサヒビール(株)	421,589	3.2
西野商事(株)	400,000	3.1
松下善四郎	302,000	2.3

●所有者別株式分布状況



株主メモ

- **決算期** 9月30日
- **定時株主総会** 12月中
- **配当金受領株主確定日** 9月30日
および中間配当を実施するときは3月31日
- **名義書換代理人** 〒105-8574
東京都港区芝三丁目33番1号
中央三井信託銀行株式会社
- **同事務取扱場所** 〒541-0041
大阪市中央区北浜二丁目2番21号
中央三井信託銀行株式会社
大阪支店 証券代行部
- **同取次所** 中央三井信託銀行株式会社 本店
および全国各支店
日本証券代行株式会社 本店
および全国各支店
- **公告掲載新聞** 日本経済新聞
- **1単元の株式数** 100株
- **証券コード** 2692

株主優待のご案内

この度、株主の皆様にご当社をより身近に感じていただくために、当社オリジナルギフト商品をご賞味いただける優待制度を導入することになりました。内容は次の通りです。

優待内容：「ちよいすdeチョイス」(3,000円相当)
(10数種類の厳選された商品の中から好きな品をお選びいただけるギフトです。)

対象：毎年9月30日の最終の株主名簿に記載された1単元(100株)以上保有の株主様1名につき1口

実施時期：12月中に送付を予定しています。
お楽しみにお待ちください。

商品の一例



フレッシュポーク
ロースステーキ用



山かれい一夜干
12枚

ISC 伊藤忠食品株式会社

お問い合わせ

大阪本社

〒541-8578 大阪市中央区高麗橋2-1-6
電話 (06) 6204-5901

東京本社

〒103-8320 東京都中央区日本橋室町3-3-9
電話 (03) 3270-7620



インターネットホームページURL
<http://www.itochu-shokuhin.com>



本報告書は、環境保全のため、古紙100%再生紙を使用し、大豆油インクで印刷しています。